

# 論点整理(案)

# (1)論点整理(案)

対象路線：自動車専用道路など一定のアクセスコントロールがなされた走行性の高い道路

## ①概ね30年後の基幹道路のあり方について

論点ア	<b>基幹道路が担う役割</b> <ul style="list-style-type: none"><li>これまで基幹道路は、①地域産業の活性化、②交流の拡大、③緊急輸送の確保などの役割を担ってきたが、今後の基幹道路の担う役割とは？</li></ul>
-----	--

論点イ	<b>兵庫県の将来像を実現するための基幹道路のあり方</b> <ul style="list-style-type: none"><li>人口減少、産業活性化、観光振興、安全安心の確保など様々な課題を克服し、兵庫県の将来像を実現するための基幹道路のあり方とは？</li></ul>
-----	--

## ②基幹道路の計画・整備の留意事項について

論点ウ	<b>既存の基幹道路を「賢く使う」ための方策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「整備」の観点だけでなく、道路ネットワークの安定的な活用や道路の機能の最大限発揮といった「利用」の観点も重要。既存の基幹道路の有効活用（賢い使い方）の方策とは？</li></ul>
-----	---

論点エ	<b>維持修繕・更新・新設に必要な財源を確保するための方策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>厳しい財政状況や維持修繕・更新費用の増大が予想される中、新設も含め、必要な財源を安定的に確保するための方策とは？</li></ul>
-----	--

## (2)論点ア 基幹道路が担う役割

- ・ これまで基幹道路は、①地域産業の活性化、②交流の拡大、③緊急輸送の確保などの役割を担ってきたが、今後の基幹道路の担う役割とは？



第1回委員会のご意見を踏まえた  
事務局案

基幹道路は、引き続き

- ① 物流・輸送の効率化や企業立地の推進等による「**地域産業の活性化**」
- ② 県内外の広域的な地域間連携や観光拠点の周遊性強化等による「**交流の拡大**」
- ③ 災害時の代替路確保や救急医療の速達性向上等による「**緊急輸送機能の確保**」
- ④ 大型車や通過車両の生活道路からの分離による「**交通安全の向上**」  
など様々な役割を担うことにより、**安全・安心で活力ある地域づくりを支える基礎的な社会基盤**である。

### (3)論点イ 兵庫県の将来像を実現するための基幹道路のあり方

- ・人口減少、産業活性化、観光振興、安全安心の確保など様々な課題を克服し、兵庫県の将来像を実現するための基幹道路のあり方とは？



第1回委員会のご意見を踏まえた事務局案

人口減少・少子高齢化が本格化する中、地域の活力の維持や働き手の減少に備えた生産性の向上、広域周遊ネットワークの形成、頻発する自然災害への備えなど、対応すべき多様な課題がある。地域の課題解決や将来像の実現に向けて、様々な役割を担う基幹道路に対する期待は大きい。

このため、**現在の基幹道路ネットワークを適切に維持**しながら、主に次の(1)、(2)の機能に分類して、基幹道路の整備を進めて行くべき。

#### (1) **今後順次整備を進める基幹道路（概ね30年後の完成を目標）**

① **生活基盤型**・・・地域間の連携など広域的な交流を促進し、全ての地域が持続可能な地域づくりを進める上で必要な道路

⇒ 北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道など

② **問題解決型**・・・渋滞解消など明確な課題を解決するために必要な道路

⇒ 大阪湾岸道路西伸部、名神湾岸連絡線、播磨臨海地域道路など

#### (2) **社会情勢等の変化により、整備を検討する基幹道路**

⇒ 委員会の議論および意見聴取等を踏まえて検討

なお、整備にあたっては、ICTの急速な進展（自動運転技術等の社会実装）、財政的制約、維持修繕、既存ストックの有効利用などに十分配慮すべき。

## (4)論点ウ 既存の基幹道路を「賢く使う」ための方策

- ・「整備」の観点だけでなく、道路ネットワークの安定的な活用や道路の機能の最大限発揮といった「利用」の観点も重要。既存の基幹道路の有効活用（賢い使い方）の方策とは？



今回、事務局案と参考資料を提示

既存の道路ネットワークの活用については、次の観点から、道路の機能を最大限に発揮させる「賢い使い方」を進めて行くべき。

- ①スマートICを活用した高速道路と地域のアクセス強化等による  
「地域の活性化」
- ②逆走対策や暫定2車線道路の安全対策等による  
「安全・安心の確保」
- ③公共交通ターミナルとの連携などモーダルコネクトの強化による  
「利便性の向上」
- ④自動運転の実装など新技術の導入による  
「道路利用の効率化」

詳細は参考資料3参照

## (5)論点Ⅰ 維持修繕・更新・新設に必要な財源を確保するための方策

- ・ 厳しい財政状況や維持修繕・更新費用の増大が予想される中、新設も含め、必要な財源を安定的に確保するための方策とは？



第1回委員会のご意見を踏まえた  
事務局案

- 受益と負担の関係を考慮した上で必要な財源の確保
- 有料道路制度を有効に活用するための料金徴収期間の延長 など

<社会資本整備審議会 道路分科会 建議案 (H29.8.22) より>

V 施策の進め方についての提案

○ 予算・財源について

予算・財源については、インフラ整備・管理の着実な実施のため、担い手の確保・育成の観点からも、安定的・持続的な確保が重要である。

その際、EU 等では様々な課金制度等が導入されているが、施策効果や受益と負担の関係等を十分考慮した上、現在の予算・財源の枠組みを適宜見直し、新たな制度設計をすることも必要である。

特に、今後、維持修繕・更新の費用の増大が予想されることも踏まえ、その費用を的確に予測しつつ、（受益と負担の考え方に則り、その費用を賄うために）必要な財源を確保することを検討する必要がある。

また、高速道路及びそれに並行する幹線道路の整備や利用状況を踏まえながら、料金を徴収している区間と徴収していない区間が混在する路線等の有料・無料の整理や償還満了後の料金徴収を検討することも必要である。